

授業コード	D7230ZZ		
科目名	ヨーロッパの世界遺産		
担当者	塩路 有子		
単位数	2	レベル	
開講期間	2017年度 後期	開講曜日	金曜2限
開講キャンパス	南キャンパス		
授業の到達目標およびテーマ	<p>テーマ:世界遺産、遺産の保存と活用</p> <p>ヨーロッパの世界遺産を概観し、イギリス、イタリア、フランス、スイス、北欧、ロシアなどの事例を解説し、登録理由とその保存状況及び利用の実態について観光の側面も考慮しながら研究する。</p>		
授業の概要	<p>「世界遺産」とはユネスコの「世界遺産条約(1972年)」に基づき、国際的協力により保護・保全を義務化した、民族や国家を超えた人類共通の宝である。条約加入国(92年日本加入)は自国内の遺産を守るための努力のみならず、さらに進んで他国の危機に瀕した遺産の保護にも協力せねばならない。また世界遺産はすべて第一級の観光地であるため、その保存・修復と同時に、秩序ある観光化のための公開方法も研究されねばならない。講義は各担当者がヨーロッパの具体的な世界遺産を解説するなかで、こうした問題への理解を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式全15回)</p> <p>(1 塩路 有子/5回)</p> <p>イギリスの世界遺産。イギリスの世界遺産には国会議事堂である宮殿やウエストミンスター寺院のような国の歴史を代表する建築物から、キリスト教の巡礼地となったカンタベリー寺院、「アイアンブリッジ渓谷」のような産業遺産までである。そうした文化遺産の歴史を把握し、観光と関連づけて分析する。</p> <p>(2 吉兼 秀夫/5回)</p> <p>フランスの世界遺産。世界遺産の分布と特長を考察した上で、モンサンミッシェル、ヴェズレー、シャルトルなどのキリスト教文化遺産、ベルサイユ、カルカソヌ等宮殿、城廓遺産、サンテミリオンなどの文化的景観やオランジュ等ローマ遺跡などジャンル別に具体的事例を分析する。</p> <p>(3 カンパナ・マウリツィオ/5回)</p> <p>イタリアの自然文化遺産。世界最多を誇るイタリアの世界遺産の中で、あまり脚光を浴びない自然文化遺産の魅力に迫る。スイスの世界遺産。レーティッシュ鉄道の魅力(世界遺産として登録されている唯一の鉄道)を紹介してから、中世における軍事建築の典型例であるベッリンツォーナ旧市街の3つの城と防壁・城壁群を紹介する。北欧の世界遺産。北の大地の自然美とその中で育まれた文化にせまる。西ヨーロッパや日本からは近くて遠い国、ロシア連邦とその世界遺産を紹介する。</p>		
授業計画	<p>第1回 イギリスの世界遺産の概要</p> <p>第2回 イギリスの世界遺産事例1:王家と議会に関係する遺産</p> <p>第3回 イギリスの世界遺産事例2:キリスト教に関係する遺産</p> <p>第4回 イギリスの世界遺産事例3:産業革命と負の遺産</p> <p>第5回 イギリスの世界遺産事例4:不思議な遺産</p> <p>第6回 フランスの世界遺産の概要:世界遺産の分布と特徴</p> <p>第7回 フランスの世界遺産事例1:キリスト教文化関連遺産</p> <p>第8回 フランスの世界遺産事例2:宮殿、城廓関連遺産</p> <p>第9回 フランスの世界遺産事例3:先史・ローマ・中世時代の遺跡</p> <p>第10回 フランスの世界遺産事例4:文化的景観、自然遺産</p> <p>第11回 イタリアの世界遺産事例:A)レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』があるサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会とドメニコ会修道院、B)アルベロベッロのトウルツリ</p> <p>第12回 イタリアの世界遺産事例:A)エオーリエ諸島、B)ドロミーティ山脈</p> <p>第13回 スイスの世界遺産事例:A)レーティッシュ鉄道アルブラ線・ベルニナ線と周辺の景観、B)ベッリンツォーナ旧市街の3つの城と防壁・城壁群</p> <p>第14回 北欧の世界遺産事例:A)シンクヴェトリル国立公園(アイスランド)、B)ベルゲンのブリッゲン地区(ノルウェー王国)</p> <p>第15回 ロシアの世界遺産事例:A)キジー島の木造教会と集落、B)カムチャツカ火山群</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>予習:</p> <p>1回目 ヨーロッパの世界遺産について概要を検索等で事前学習しておく。</p> <p>2回～15回目 事前予告した資料を事前学習する。</p> <p>復習:</p> <p>毎回異なる事例を解説するので授業内容のノートを整理するとともに関連資料にあらためて当たって確認する。</p>		
授業の方法と学習上の留意点	<p>具体的な世界遺産事例を取り上げ講義する。できるだけ視聴覚教材を使用して学生の理解を助ける。毎回コメントシートを課すとともに4回の論文試験を課す。</p>		
成績評価基準	<p>成績は、授業への参加度(30%)と小テスト(70%)によって評価する。</p>		

教科書	授業中指示する。
参考文献	授業中指示する。
関連して受講することが望ましい科目	特になし。
シラバス分野	学科科目